

<b>■After</b> <b>建築名称</b> 下段: 英語名	<b>大手町ビル</b> Otemachi Building		<a href="#">建築URL</a>		
<b>建築用途</b>	大分類 事務所	小分類 オフィス			
<b>設計者</b>	三菱地所設計		<a href="#">設計事務所</a>		
<b>所在地</b>	東京都千代田区大手町1		<a href="#">Google Map</a>		
<b>改修年</b>	2020年 屋上改修2022年	<b>元建築の竣工年</b>	1958年		
<b>建築規模</b> 構造・階数・面積	鉄筋コンクリート造、地下3階、地上9階、延べ床面積 111,272.72㎡		<b>After</b>		水平垂直のフレームで覆い統一感を持たせながら、接する通り別に埋め込む材料を違えている。
<b>掲載書誌</b>	新建築:2021年3月号		<b>撮影者</b>		撮影:黒住直臣 2021年 提供:三菱地所設計
<b>賞・選定</b>	・2021年度、2023年度グッドデザイン賞 ・2022年ランドスケープコンサルタンツ協会賞 設計部門 最優秀賞 ・日本建築家協会優秀建築100選		<b>概要</b> <b>after</b>		大きなオフィス空間のビルに建て替えられる市場傾向の中、東西に長い中廊下や20坪単位で仕切れる特性を活かし、スタートアップ企業が求めるオフィスへのリノベーション
<b>主な関連法規、条例、助成金等</b>					
<b>関連組織等</b>					
<b>資料等</b>			<a href="#">資料のURL</a>		
<b>■Before</b> <b>建築名称</b>	<b>大手町ビルヂング</b>		<b>概要</b> <b>before</b>		1958年の竣工時は東洋一の規模を誇る、南北の長さ56m 東西205mの長方形ビル。
<b>建築用途</b>	大分類 事務所	小分類 オフィス			
<b>■写真</b> Before	リノベーション前の外観。柱梁のフレームを現しにしている	<b>After</b>	1F東西通路。天井照明を間接照明に変更したが、床面、壁面は在来の仕上げを活かした	<b>After</b>	設備スペースであった屋上空間を、約4,000㎡の屋上庭園「大手町ビルスカイラボ」に
					
<b>撮影者</b> <b>提供者</b>	撮影:黒住直臣 2017年 提供:三菱地所設計	<b>撮影者</b> <b>提供者</b>	撮影:桐原武志 2023年	<b>撮影者</b> <b>提供者</b>	撮影:横山祥平 2022年 提供:三菱地所設計
<b>■関連タグ/リノベーションキーワード</b>	外観改変、居ながら改修、既存活用、緑化、内装改変				
<b>■リノベーション内容</b>	<p>&lt;三菱地所設計提供&gt; 1958年に竣工した「大手町ビル」は、地下鉄や都市インフラといった多様な側面からも、今日なお利便性の高い施設として使用されている。一般的に、大規模街区の築古ビルには、建て替えという大規模再開発手法が選択されることが多く、オフィス空間も柱がない大空間が求められるが、この大手町ビルは、低層で、柱が多く、長い廊下形式であるという状況を活かし、小割りオフィスへの需要が旺盛なスタートアップのテナント需要に応えるべく、既存活用の方針が取られることとなった。</p> <p>外装は新設サッシと外壁パネルと一体化したフレームを外側より取り付けたと、内側(テナント専有部)の既存サッシを入居テナント側のスケジュールに合わせて取り外す「居ながら改修」を実施した。長手200mものボリュームの柱・梁で構成された均質な外観に対し、建物が面する大名小路、日比谷通り、丸の内通りをイメージさせる素材とし、それぞれの通りごとに異なる風景の創出を試みた。</p> <p>外装/共用部内装/地下店舗施設の増強/屋上活用を主眼とした長寿命化に際し、既存ストックの特性を価値へと転換、ハード・ソフトの両面からアップデートする計画である。</p>				
<b>■備考</b>					
<b>■作成者</b> 氏名/所属	桐原武志 Free/JIA再生部会		<b>作成協力者</b>	三菱地所設計	<b>整理番号</b> No203